子どもの未来応援団報告書

表　題　　：おひさまパン工房
学校・団体名　：箕輪町立箕輪東小学校
活動グループ名：おひさま学年
担当者・教諭名：竹腰　彩美
活動人数　　：１９人

（１）活動を始めた理由

２年前の４年生の春に、給食で出た「ピザパン」の”ふわふわさ”に学級が感動し、自分たちのパンの研究が始まりました。
５年生でも「『また食べたい』と言ってもらえるようなパン」を目指す中で、「自分たちが育てた麦でパンを作りたい」と昨年度は鳥に食べられて収穫できなかった麦をまた育てることに決めました。パンづくりでは、「生焼けになってしまう」という課題が学級で大きく挙がり、地域のパン屋さんが窯でパンを焼いていることから、自分たちも窯を使って焼くと、その課題が解決されるのではないかと、「手作り窯を使ってパンを焼こう」という活動が動きだしました。

（２）活動内容・活動の写真（カラー）

（３）活動結果

＜おひさま畑の麦　リベンジ　麦を守ろう＞

10月18日(金)麦畑づくりが動き出しました。１７日は朝から畑へ行く気持ち満々な子どもたち。この日、保護者の方と地域の方が耕運機を持って来てくださり、１時間ずつ一緒に活動をしてくださいました。大きな草をおひさまのみんなで取り、その場所を学校と小島家の２台の耕運機でおこしていきます。広い畑にちらばって、それぞれが自分の場所を黙々と作業をしていると、一輪車が何回も満杯になっていました。また、耕運機に慣れているAさんが動かす姿を見て、耕運機に興味津々の子どもたち。彩愛さんのお父さんが、おひさまも運転できるようにと横で見守り支えながら、子どもたちも運転させてもらいました。緊張しながらハンドルを握り、「動きがおもしろい」と話す子もいれば、「ちょっと怖いけれどなんだか楽しい」と自分が動かしているという感覚を楽しんでいる子もいました。午前中の約１時間半作業をして、畑の４分の３まで作業が終わりました。作業の最後に入り口から畑の姿をみた子どもたちは、なんだか満足感にあふれた、やりきったぞ！という、そんな顔をしていました。

2月27日(木)麦を鳥から守るために、畑の面積にちょうどよい大きさの防鳥ネットの大きさを計算しました。その後、防鳥ネットをかけるために、畑に穴を掘って支柱をうえていこうとしましたが、自分たちの力だけでは強い支柱をたてることが難しく、保護者の方の力を借りて行いました。親子作業中も、「もっと掘らないとだめだよ」「石を入れないと安定しないかも」などお家の方のアドバイスで、倒れない丈夫な支柱が完成しました。今年こそは、育てた麦を食べたいそんな思いが子どもたちから強く伝わってきます。

＜手作り窯でパンを焼きたい＞

1月31日(金) おひさまパン工房の窯づくりが動き出しています。赤土を研究しているチームは、赤土の強度がどれくらいなのかを確かめるために、火で燃やす実験をしました。赤土は、学校の畑を掘って出てきたもの、南小河内の公園で採取した土、地域の方が工事現場で発掘されたものをいただいた土の３種類と、２つの土をミックスしたもの用意して比べました。実験では、またまた、着火に手間取っていましたが、なんとか火をつけて、土を燃やします。３０分間を１つの目安としてやってみると、「だんだん焦げている感じがあるけれど、トングで持った感じ固くなってきている」「学校でとれた土と、南小河内の土はもう崩れちゃったから、赤土じゃなかったのかな」「工事現場の土は、すごく固くなっている！落としても崩れない」「工事現場と混ぜた土も崩れちゃっているから、工事現場の土だけを使ってドームを作ろう」と、実験から使っていく土を決めていました。

2月25日(火)ブロックや耐火レンガを、並べていきます。耐火レンガは、事前におもちゃのブロックを組み合わせて、「空気が漏れないように」「熱気の通り道を考えた空気穴」がどうすればうまくいくのかを考えていました。自分たちが考えた図案通りに、ぴったり並べられて「すっきりする」「ぴったりいって気持ちいい」と子どもたちは満足そうな様子でした。

ドアづくりチームは、取って部分をどのように板とつなげるのかについて悩んでいます。自分たちが考えた案では、すぐに外れそうで強度に心配がでるため、保護者の方にアドバイスを求めました。「L型の金具をつけたらいい」と組み合わせ方を教えてもらうと「あぁ、そうすればたしかにくっつくし、頑丈そう」と納得の声があがりました。

＜どんな人でも食べられるパンを＞

「６年生さんへの感謝の気持ちをこめてパンを渡そう」とクラスで話し合い、６年生さんに喜んでもらえるようなパンを作るために、それぞれ手順を確認したり材料を調整したりして準備をしていました。その中で、おひさまパン工房としての課題が、「乳製品のアレルギーをもった６年生さんにも渡すためにはどうしたらいいだろう」というものです。昨年度の６年生さんに渡したときには、成分表示について学習し、アレルギーを持った人にも選んで食べてもらえるように、一人ひとりが自分のパンの成分表

示を作りパンと一緒に渡しました。今回は「乳製品」です。１９人のパンの中で「牛乳、バター、スキムミルク、チーズ」といった「乳製品」が入っていないパンを作っていたのはKさんの蒸しパンのみという事実を知ったとき、子どもたちは「１個しかあげられないのは、ダメだよ。みんなと同じくらいあげたい」という思いで、Sさんが蒸しパンに入れていたチーズと牛乳を変更して作ることに決まり、先週のパンづくりの際に一度作って試していました。子どもたちと、どうしようかと考えている中で、自分たちだけでは知識不足な部分が多くありました。そのため、栄養士の原先生から「食物アレルギー」について、そして「給食室ではどのような対応をしているのか」学習する機会を設けました。教えていただいたことをもとに、自分たちが家庭科室でパンづくりをするために、「作業場所を完全に分けないと」「乳製品を使った人がその場所に近づかないようにしよう」「材料準備のときに乳製品をもって歩く道は、この通路しかだめだね」「乳製品無しの蒸しパンチームは新しいふきんやスポンジを使って、道具をよく洗おうね」「パンが完成しても近づいたらダメだよ」と約束事をみんなで確認しました。パンづくり中も、約束事を守るためにお互いに声をかける姿が多くみられました。少し緊張感もありました。６年生さんに、パンを渡すときまでみんなの約束事を守ろうとする気持ちは途切れず、本人にしっかりと渡せた様子をみて、周りもほっとした表情をしていました。食を届けるという立場にたった子どもたちにとって、「食物アレルギー」をもった人にも食べてもらうためにと考え行動した経験は、とても貴重な学習となったことと思います。

　これらの活動を通して、麦畑を守るための環境を整備することができました。また、自分が目指すパンづくりを何回も試行する中で、パンづくりの技能を高めることもできました。それだけでなく、１９人で進んでいくという思いを強くし、保護者や地域の方に進んで関わろうとする子どもたちへと育っていきました。みんなで何かを決めていく場面では、友だちの話を聞いて自分の思いを伝え、互いの考えをわかろうとしながら折り合いをつけていこうとしています。また、自分たちの力だけでは難しい課題を解決しようと、「〇〇さんに聞いてみよう」「もしかしたら近所のおじちゃんが知っているかも」などと、地域の方と繋がっていこうとする思いを強く感じました。この活動で得た力が、日々の授業や児童会活動にもつながっています。